

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	特別展示事業(3部門)				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	美術博物館			1	10	5	6	11	8	17,152
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり				包含する細々目							
施策	27 文化芸術の振興											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要							
		事業期間	1	年度～	年度							
						関連計画 条例等	・地域史研究事業 ・春草&郷土作家調査研究保管事業 ・伊那谷文化史調査研究保管事業 ・伊那谷自然史調査研究保管事業					

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	・飯田下伊那広域圏の地域住民 ・学芸員の調査・研究活動	圏域住民数(人)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			177000	177000		
		学芸員が調査・研究するテーマ数(件)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
			30	30		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
・特別展の開催を通じて、自然や文化・芸術に対する関心を高め、新たな知識や感動を提供する。 ・調査研究活動の内容を地域に還元する。	特別展の観覧者数(人)	18目標	15000	最終目標		
		18実績	17230	19目標	17000	
		23目標	20000	23実績		
		18目標	4	最終目標		
		18実績	4	19目標	7	
		23目標	6	23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	内外の優れた作品・資料を紹介する特別展示や、伊那谷に関わる自然・文化を紹介する特別展示を、調査・研究活動の成果に基づいて計画立案し、開催する。	特別展・企画展示の開催 ・特別展「遠山霜月祭の世界 神・人・ムラのよみがえり」 (会期:10月1日～11月5日 会場:美術展示室・展示室A・B) ・特別陳列「日夏耿之介の眼 会津八一との出会い」 (会期:4月8日～5月7日 会場:展示室A半分) ・平常展示「印籠と根付 掌(てのひら)の動物園」 (会期:4月1日～5月7日 会場:展示室A半分) 次年度以降の特別展示の準備 ・平成19年度特別展・企画展準備	特別展・企画展示の開催数(回)	3
		特別展・企画展示の開催 ・特別展「水谷章人写真展 1967～2007 アスリートの記憶」 (会期:7月14日～8月26日 会場:美術展示室・展示室A) ・特別陳列「桜 爛漫と愛惜の花」 (会期:4月3日～5月6日) ・特別陳列「飯田大火60年 まちを変えた大災害を振りかえる」 (会期:4月19日～5月27日 展示室B) 次年度以降の特別展示の準備 ・平成20年度特別展・企画展準備	特別展・企画展示の開催数(回)	3

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	21,925	17,152
	事業費計(A)	21,925	17,152
人件費	正規職員所要時間	18年度 4,500	19年度 4,500
	臨時職員等所要時間	200	200
	人件費計(B)	16,307	16,307
	トータルコストA+B	38,232	33,459

特定財源内訳や補足事項
上記事業費計は美術・人文・自然3分野の特別展示開催費を集計したものです。

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	・いつでも誰でもどこでも気軽に楽しむ ・自己表現の機会が得られる ・文化活動を主体的に担う	文化芸術活動に無縁な生活をおくっている人の割合(%)	現状値	64.8	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	50
	文化活動に自ら主体的に関わっている市民の数(人)	現状値	7052	19実績		
		20実績		21実績		
22実績			23目標		8500	

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
当地住民による美術・人文・自然への関心の高まりから、平成元年に飯田市美術館が開館した。これ以来、内外の文化・芸術や自然に関する情報を紹介するために、特別展の開催を継続している。	作品・資料の館への寄贈が増加し、調査・研究も充実してきていることから、自主企画の展覧会が増加している。 また、展覧会の企画や、展示技術などにも工夫を凝らし、質的な部分でも充実してきている。	美術・人文・自然に関心を持つ市民にとっては、それぞれの特別展(自主企画・巡回企画)に対する期待が非常に大きい。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	特別展・企画展示は10か年計画に基づき、毎年見直ししながら進めているが、資料の収集保管・調査研究活動に基づいた、よりメリハリのある企画、時機を得た企画を考える必要がある。本年度中に、開催テーマ・内容・方法、ならびに広報方法等について抜本的な見直し作業をおこなう。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	展覧会は資料の収集保管・調査研究活動の反映でもあるため、本館全体の活動内容に深く関わってくる。来年開館20年を迎えるのを契機に、市民・外部研究者・機関等の意見も聞きながら見直しを進める。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	